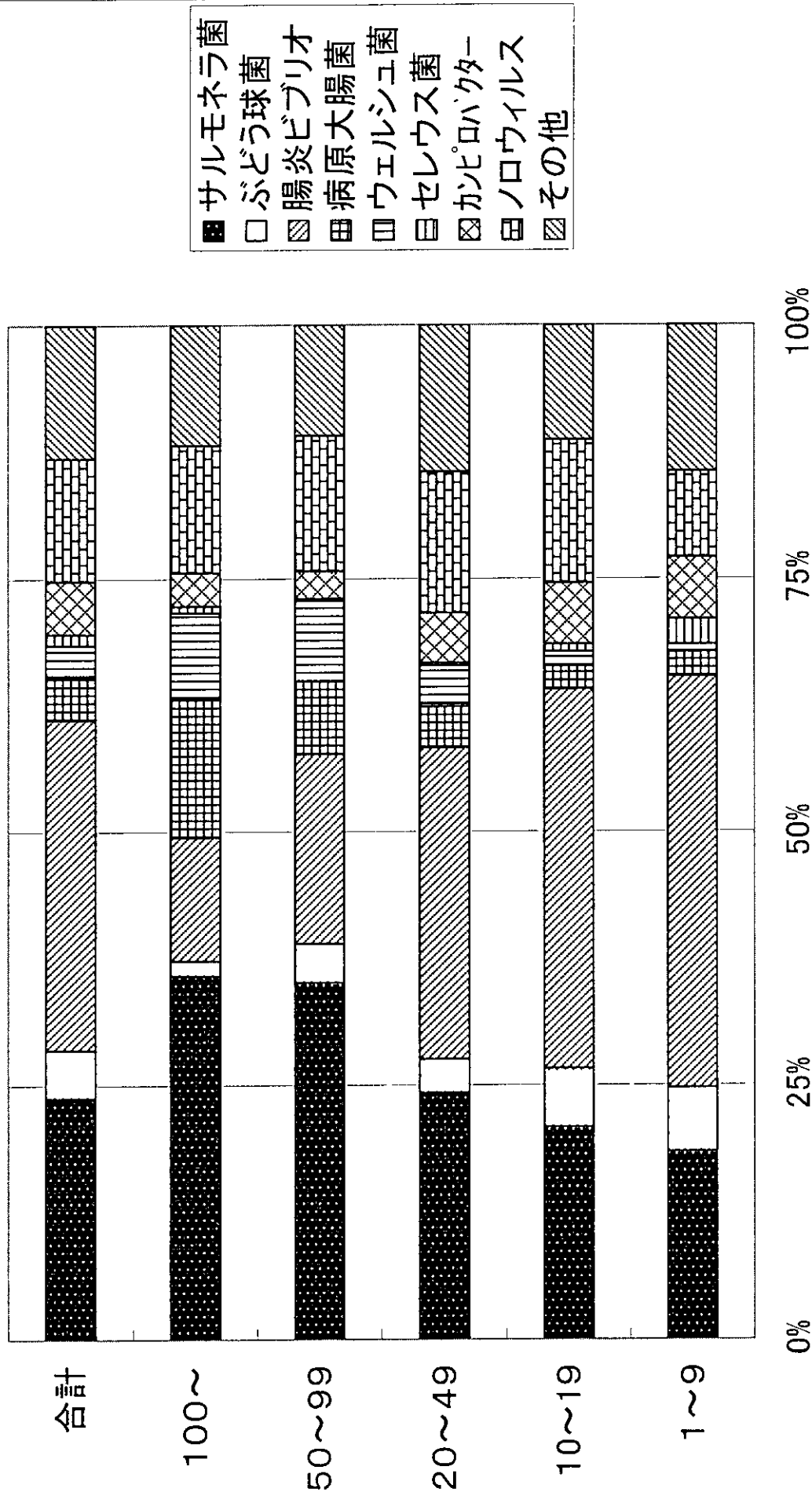


図5 患者数規模別病因物質別事件数



● ●

図6.製造所の食中毒の病因物質

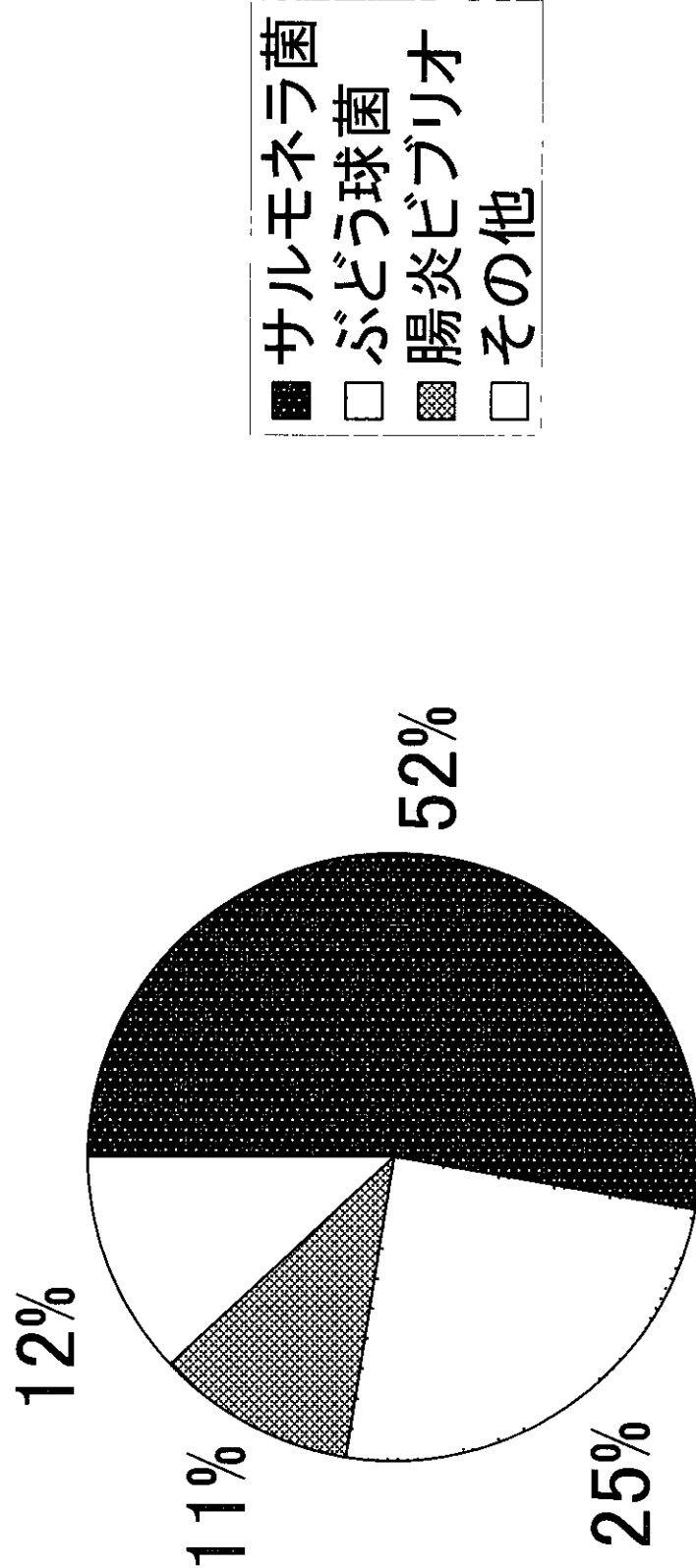


図7.サルモネラ菌の汚染源

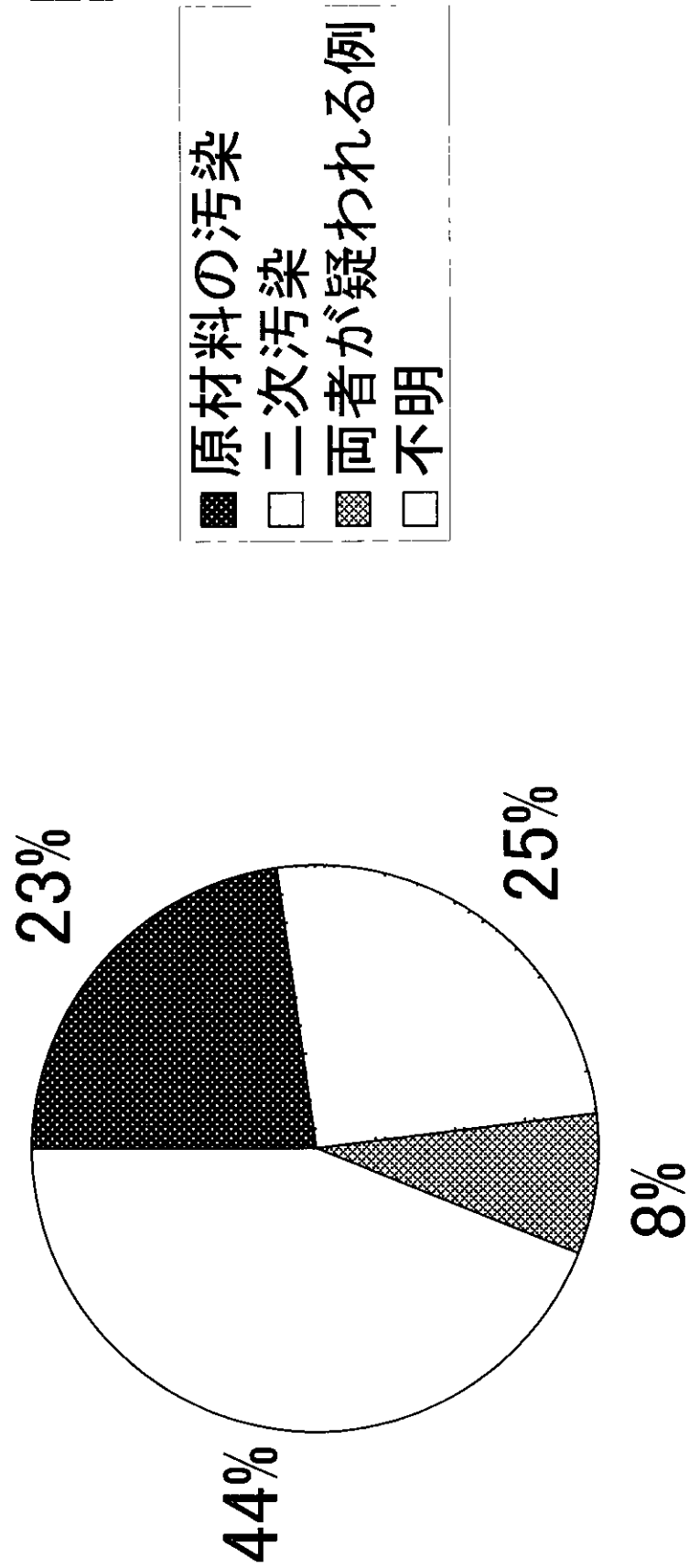
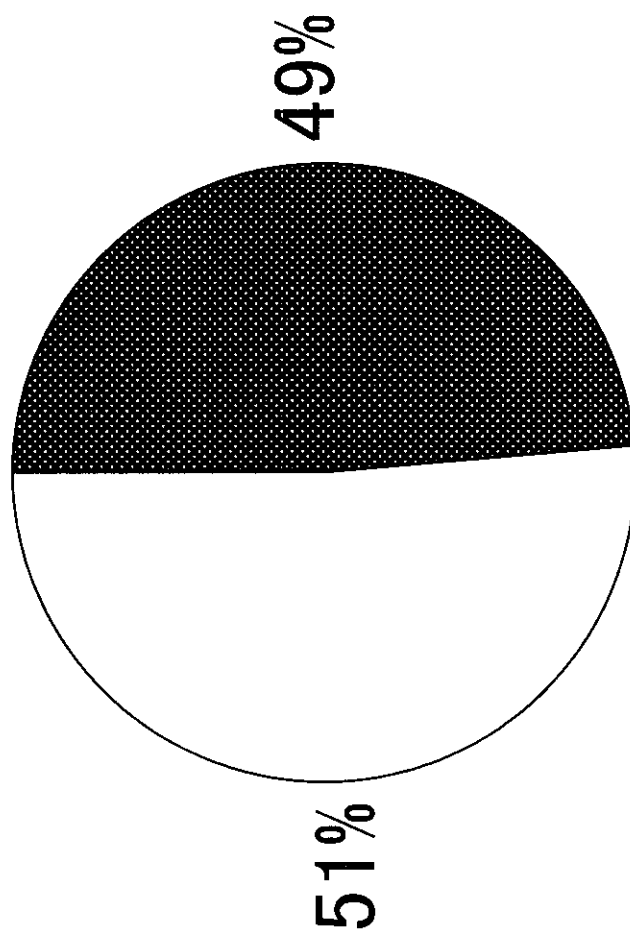
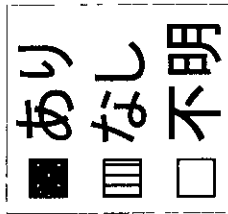
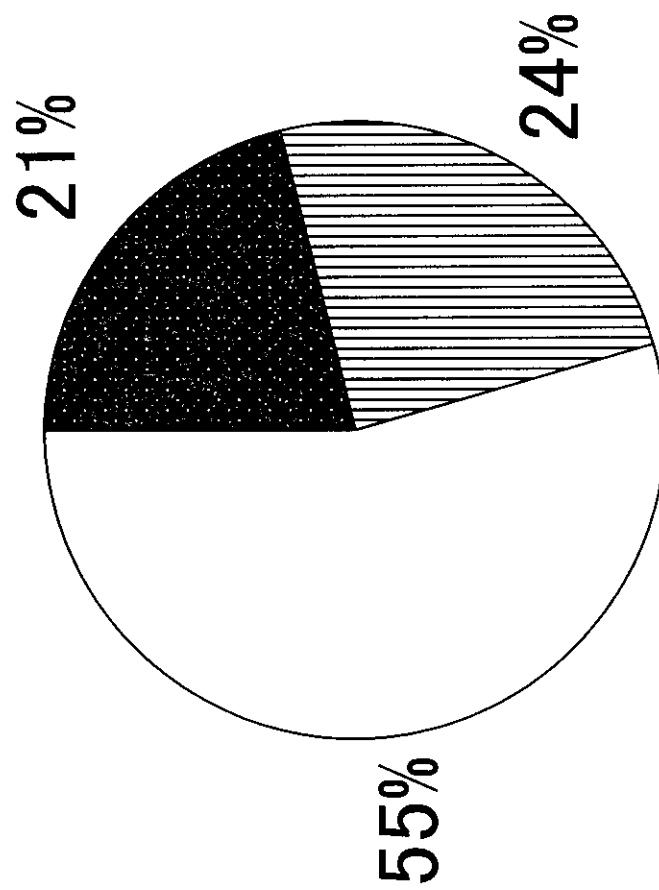


図8.ふどう球菌の汚染源



■ 手指からの汚染  
□ 不明

図9.原材料の汚染



● ●

図10.調理人等からの汚染

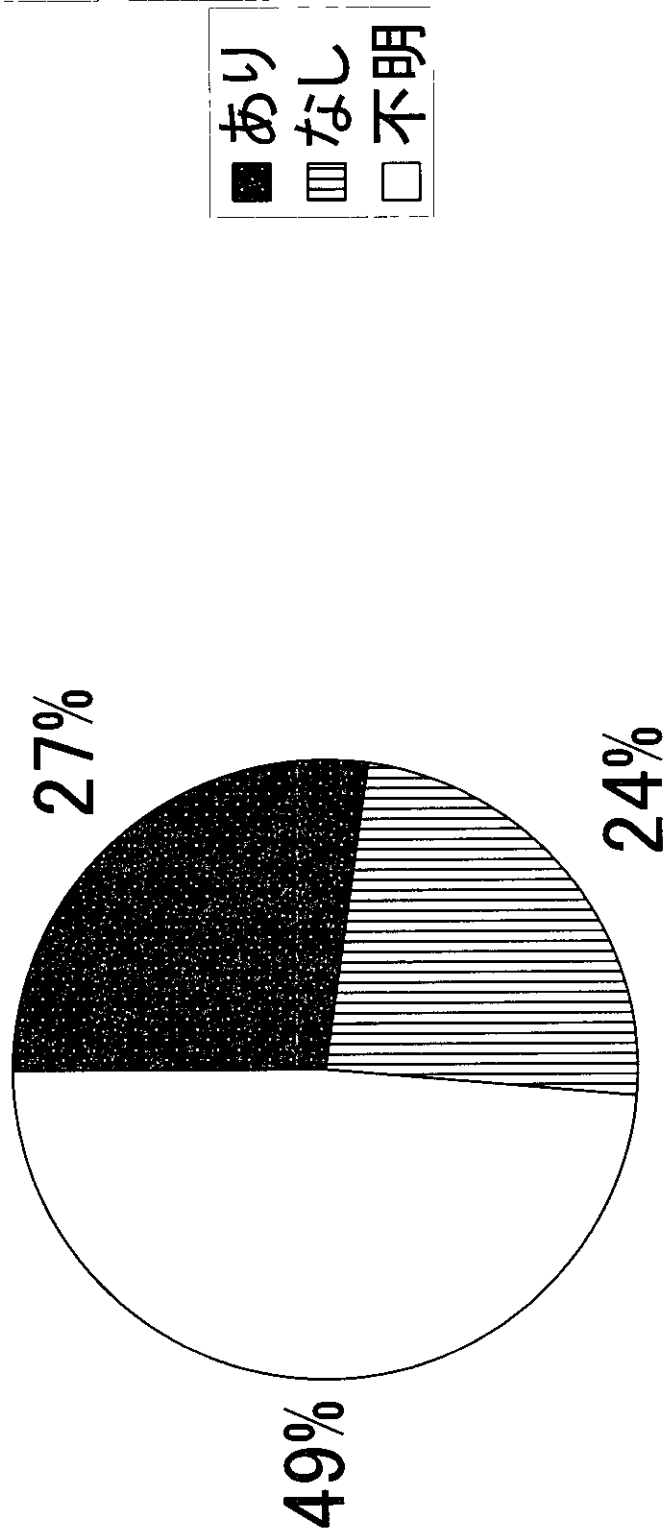


図11.調理器具等からの汚染

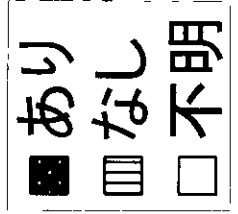
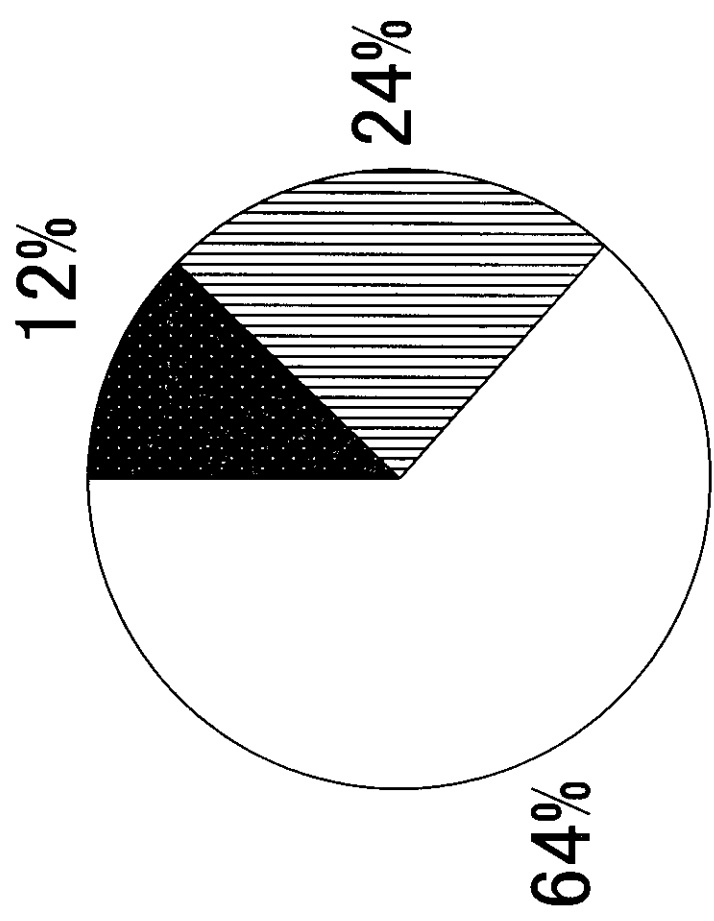


図12.原材料の保管の不備

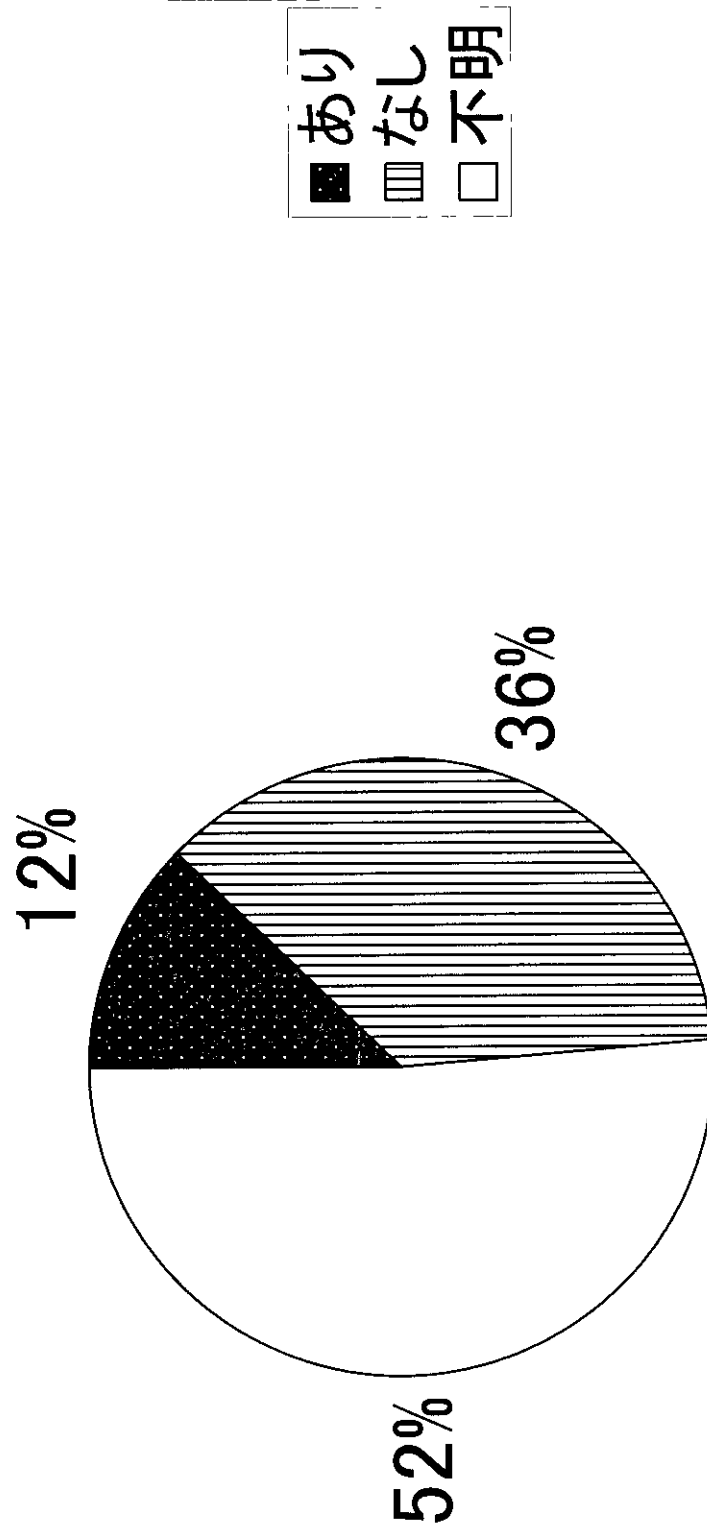
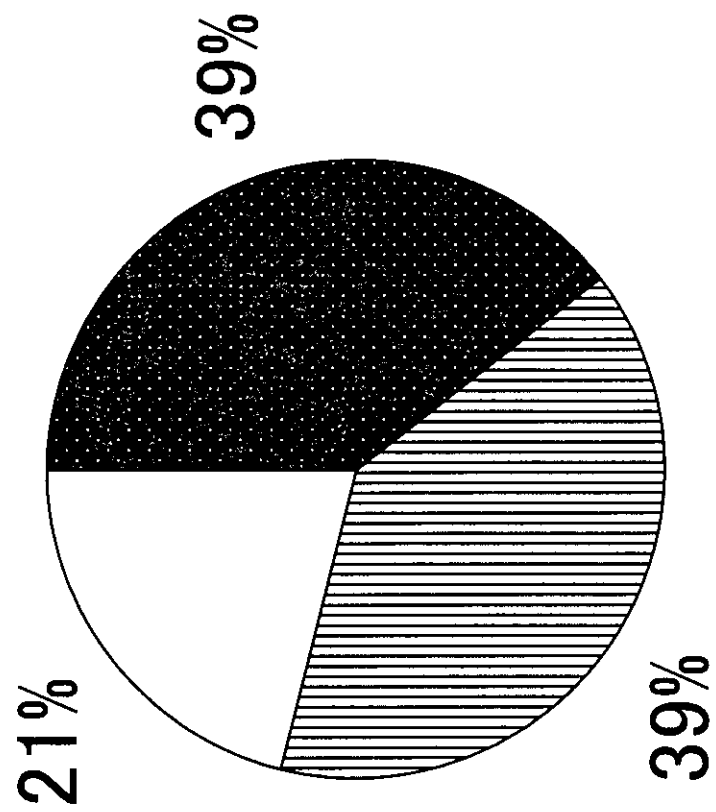




図13.調理済食品の保管の不備



● ●

図14.従業員・調理人の衛生知識の不足

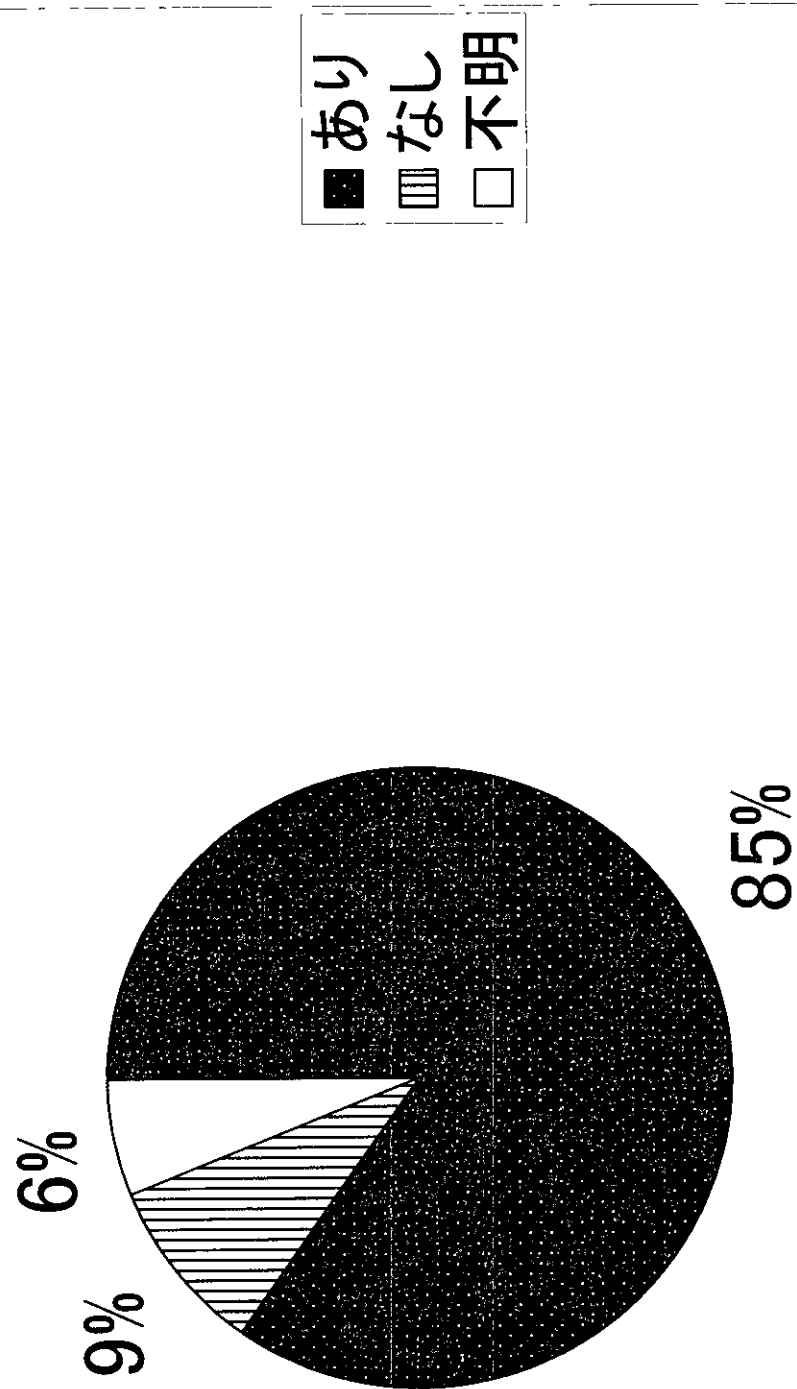
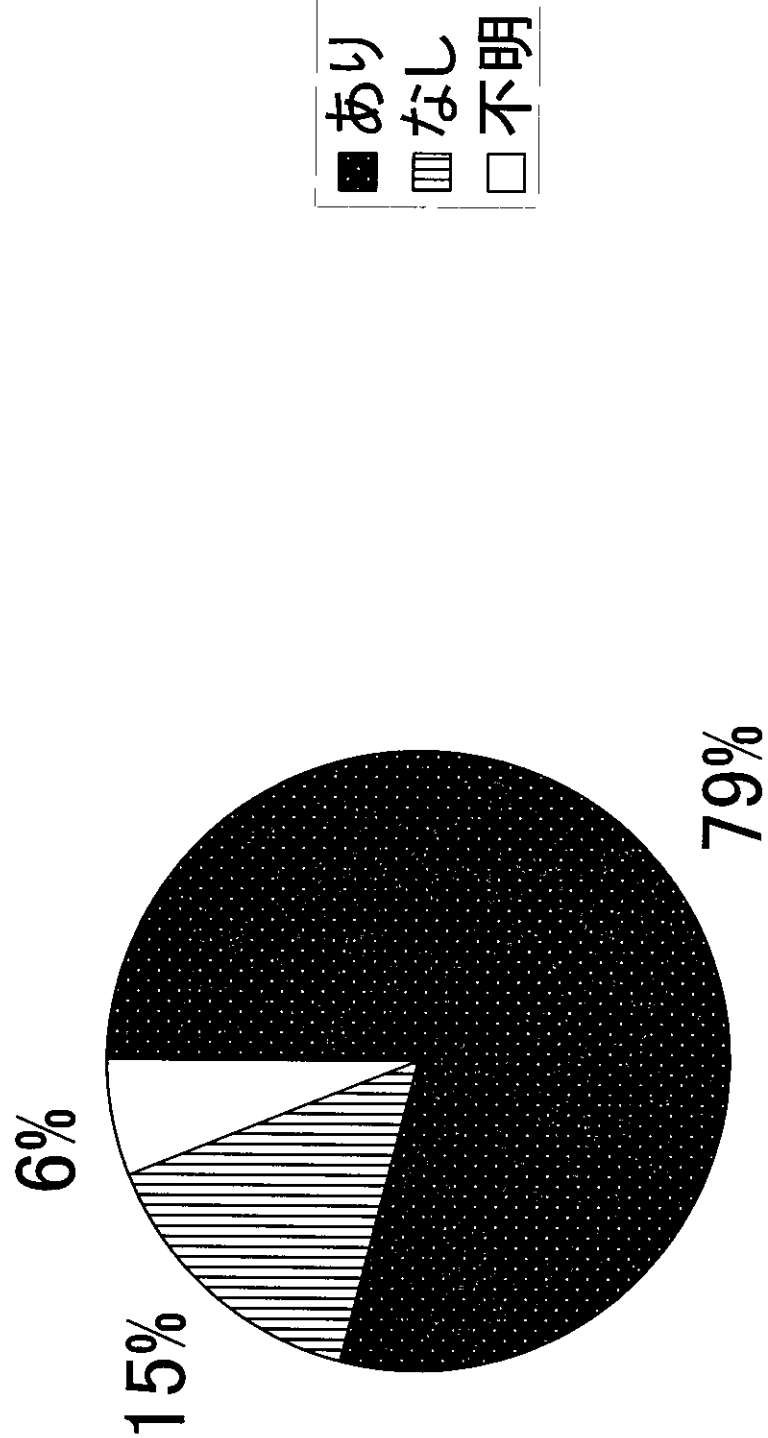


図15.経営者の衛生知識の不足



● ●

図16.経営者の食中毒予防への意識欠如

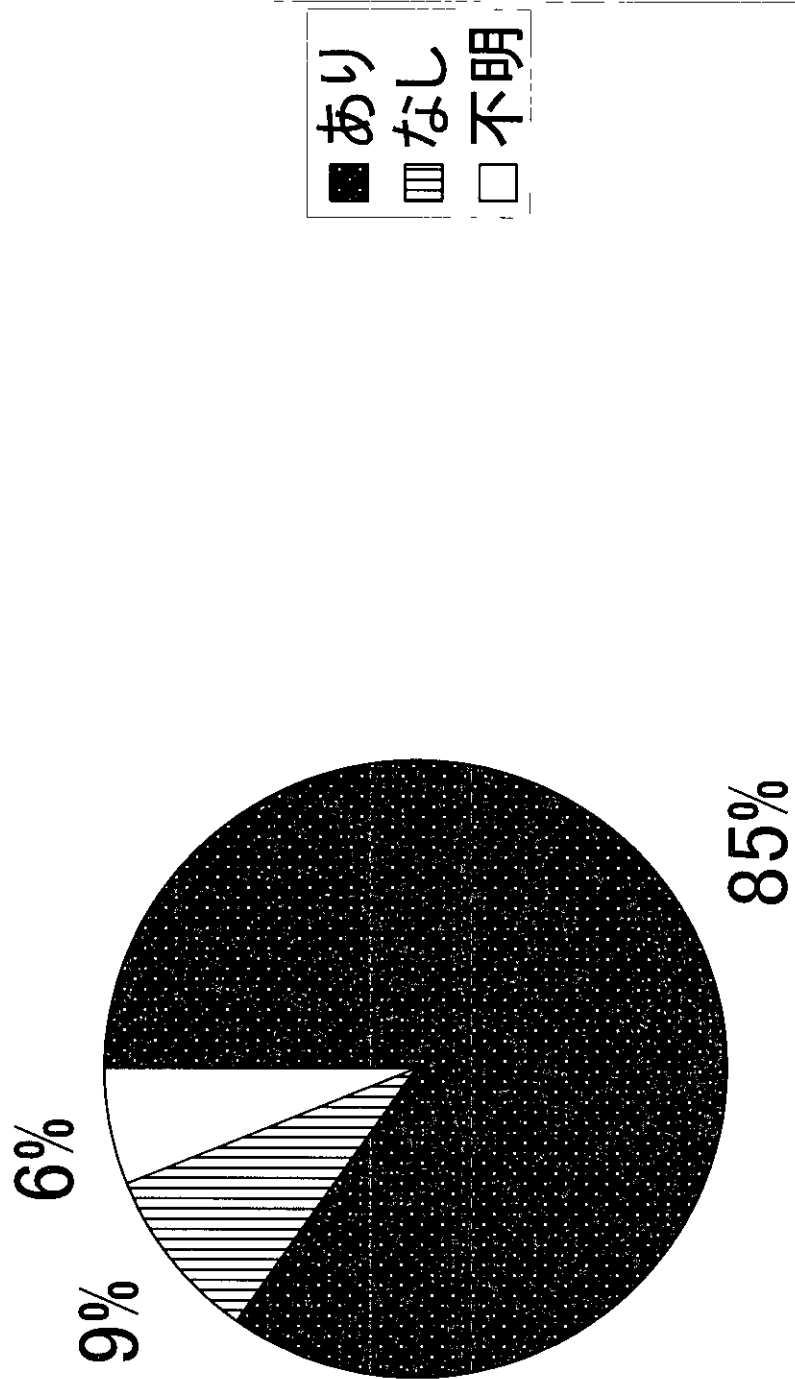
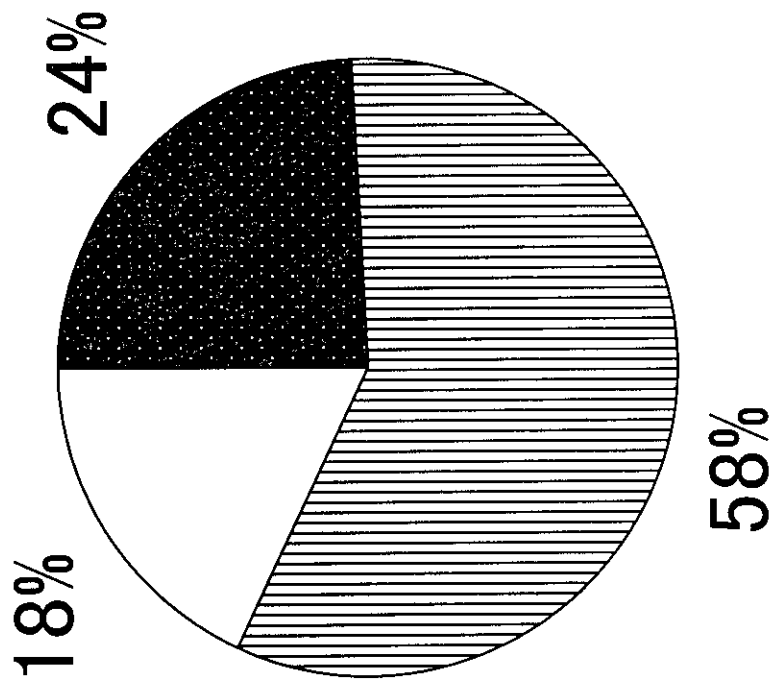


図17.能力以上の過剰生産の有無



■	あり
▨	なし
□	不明

図18.従業員規模

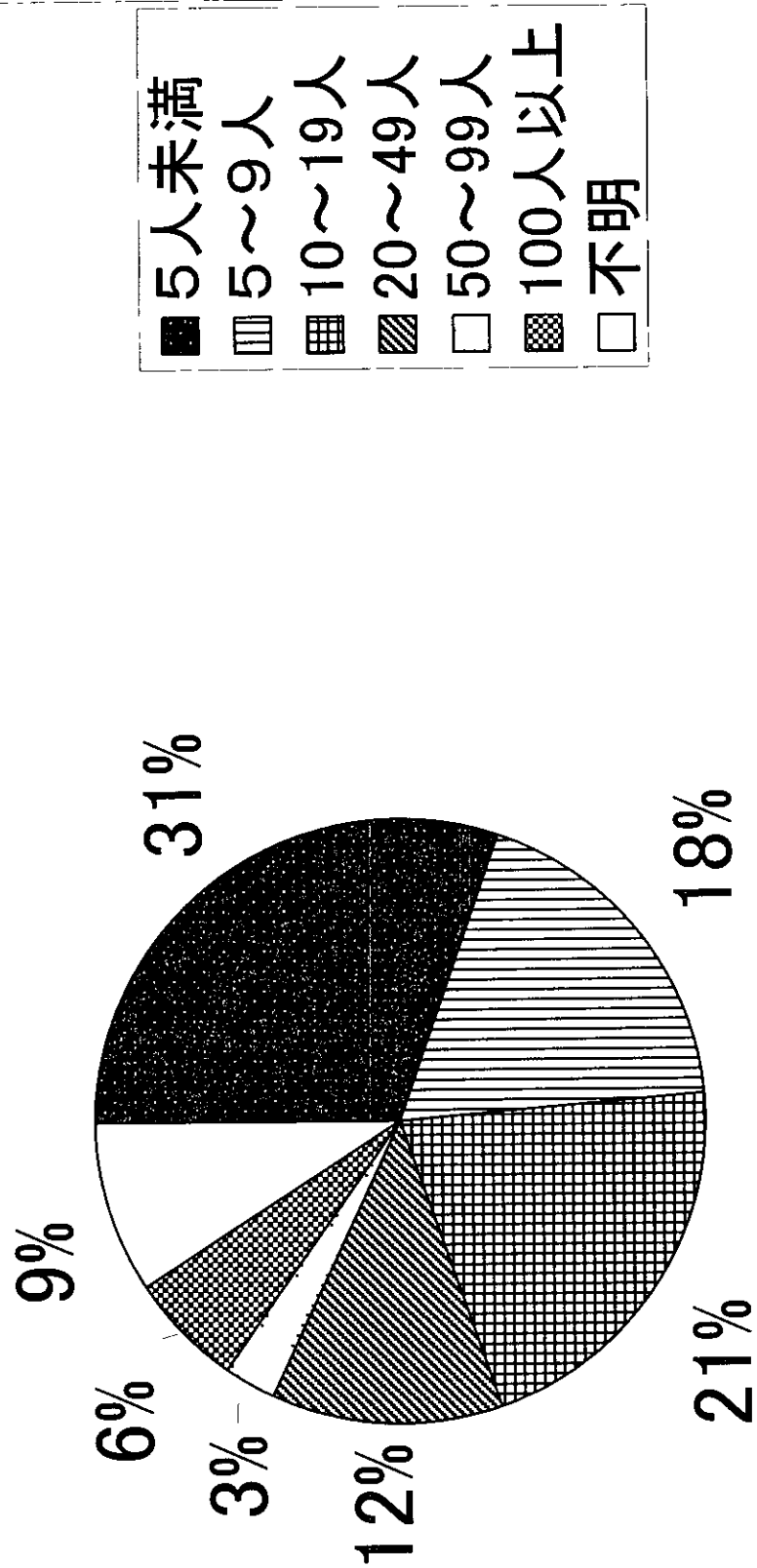


表 1 サルモネラ汚染の原因食品

洋菓子・菓子類	43件
洋菓子	42件
洋生菓子	41件
シュークリーム	10件
チーズケーキ	5件
ムース・ババロア	5件
ティラミス	5件
氷菓	7件
調理パン・サンドイッチ	6件
菓子パン	4件
その他	13件
不明	4件
合計	75件

表 2 ぶどう球菌汚染の原因食品

和菓子	22件
団子類	10件
餅類	6件
どら焼き	3件
洋生菓子類	4件
乳製品	3件
調理パン	2件
その他	3件
不明	1件
合計	35件

表 3 腸炎ビブリオ汚染の原因食品

貝類	8件
カニ	4件
その他	2件
不明	1件
合計	15件

表 4 製造所の業種

菓子製造業	22件
乳製品製造業	2件
アイスクリーム製造業	1件
食肉製品製造業	1件
そうざい製造業	4件
その他	3件
合計	33件

# 分 担 研 究 報 告 書

- 7 食品事故事例の危機管理の実態及び改善すべき諸問題に関する研究

分担研究者 難 波 吉 雄



厚生科学研究費補助金（食品安全確保研究事業）  
（分担）研究報告書

食品事故事例の危機管理の実態及び改善すべき諸問題に関する研究

分担研究者 難波 吉雄 東京大学医学部加齢医学 講師

研究要旨 近年、食品を取り巻く社会環境の変化から、食品事故に関する事故事例に関しては、生命や健康をため、行政からも迅速かつ的確な対応が求められているだけでなく、一般国民が必要とする情報の提供も求められている。そこで本研究では、実際に事故事例に対応した企業担当者からヒアリングを行い、食品企業等において、健康危機管理面で有用な対応プロトコール作成に資する内容の基礎的検討を行った。

食品企業の危機管理における対応について、特に情報開示の関する点について、医療事故の情報開示との類似性に着目して検討を行った。判断の基準となるべき事項を明らかとし、それらの事項ごとにグレーティングを行い、それらを総合的に判断することで、より客観性を持つ基準のもとに種々の対応が可能となることが考えられた。

分担研究者 難波吉雄  
東京大学医学部加齢医学講師

#### A 研究目的

近年、食生活の多様化による輸入食品、加工・冷凍食品の増加等に伴い、食品の製造・流通形態が大きく変化している。

また、最近では新興再興感染症病因物質等による食中毒のみならず、食品企業に内包される多くの諸問題が明らかとなってきたこと、また消費者の意識の変化などによって、特に健康に関する部分の社会状況で、著しい変化が認められる。

このような状況のもと、とりわけ食品に関する事故事例に対しては、行政としても生命、健康を脅かすに事態として迅速かつ的確に対応することか求められているだけ

でなく、一般国民に対して、的確な情報提供が求められている。昨年度の研究により、国内データベースの特徴や食品企業の実際の事例における対応の一端とその改善策が明らかにされつつある。

そこで本研究では、昨年度に引き続き企業当事者へのヒアリングを実施しその対応について検討すすめ、最終的には食品企業等で有用な健康危機管理面でのプロトコールを作成することを目的とする。

#### B 研究方法

事例に関しては、企業担当者にヒアリングを実施するとともに、情報公開のあり方について医療事故の場合との比較検討を行った。

## C 研究結果

### 企業担当者へのヒアリング結果

実際に事故に遭遇し対応したある企業では、その後社内の危機管理体制の見直しを行うとともに、危機管理に関する規程、同様の緊急事態が発生した場合の連絡体制、危機管理事項の分類とその事項に対応する部署の再確認、危機に際しての行動の基準、情報の開示に関する考え方を示した基準、品質に関する委員会の運営規則等危機管理に際して必要と思われる諸規程の見直しや徹底かなされていた。

特に情報開示に関する考え方において、判断の基準として健康被害に関すること、法令に関すること、社会的信用に関すること、経済的損失に関すること等が挙げられている。また、それぞれの事項について、被害拡大の観点から下記のようなグレーティングかなされていた。

#### 0 該当せず

- 1 被害拡大の可能性低い
- 2 被害拡大の可能性は中等度、重篤化する可能性は低い
- 3 被害拡大の可能性高く、重篤化する可能性あり

これらのスコアを総合的に勘案することで、様々な対応様態が想定されていた。

## D 考察

実際に食品事故事例に遭遇し、その事例に対応した企業では、社内体制や諸規程の見直し等種々の危機管理対応に対応すべく多くの対策が講じられていた。特に情報開示に関する考え方で判断の基準となる事項を明らかとし、それらの事項ごとにグレーティングを行い、それらを総合的に判断する

体制かとられていた。一方医療事故の対応に関して同様な考え方が採用されていることは非常に興味深い。

すなわち国立大学病院では国立大学医学部付属病院長会議において医療安全管理協議会のガイドラインが示されている。それによると、まずインシデントレポートで報告すべき範囲が以下のように示されている。

- ① 患者様に傷害が発生した事態(ただし、右欄に掲げる事項を除く)
- ② 患者様に傷害が発生する可能性があった事態
- ③ 患者様やご家族からの苦情(医療行為に関わるもの)

※ 上記①、②に含まれるもの

- ・ 医療用具(医療材料や医療機器)の不具合
- ・ 転倒、転落
- ・ 自殺、自殺企図  
無断離院
- ・ 予期しない合併症
- ・ 発見、対処(処置)の遅れ
- ・ 自己管理薬の服薬ミス
- ・ 患者様の針刺し など

ただし、下記の事項は別途システムによる

- ① 院内感染
- ② 食中毒
- ③ 職員の針刺し
- ④ 暴行傷害(事件)、窃盗盗難(事件)
- ⑤ 患者様やご家族からの苦情(医療行為に関わらないもの)

さらに、報告のあった全ての事象を「インシデント」と、インシデントのうち、①「医療側に過失があり」、②「患者様に一定

程度以上の傷害があり」、③「①と②に因果関係がある」ものを「医療事故」と定義している。実際報告すべき範囲および事項を明確化することで、報告がスムーズになされてきている。

食品企業においても健康被害に関すること、法令に関すること、社会的信用に関すること、経済的損失に関すること等か事項として明確化されていた。しかしながら、緊急の事故事案に対応する場合、これらの項目に沿って対応を行うことは重要であるか、内容が漠然としており起こっている事案が事故かどうか判断を行う場合に困難な状況を生じる可能性もある。従って、これらの事項ことにとのような案件が含まれるかを具体的にすることで、より危機管理対応がスムーズに行うことかてきると考えられる。たとえば健康被害では食中毒の可能性の有無、異物によるものかどうか、法令では違反の有無、違反ではないが社会的に重大な影響を及ぼす可能性のあるもの、社会的信用については、商品に関するスキャンダル、経済的損失では知的所有権に関すること、風評被害といった内容である。

また、医療事故では表に示すようなグレーディングがなされており、「一定程度以上の傷害」は、3b以上と定義されている。食品企業危機管理でも同様な考え方がとられている。判定に関してグレーディングを行う場合、事項ごとの重み付けが重要な意味を持つてくる。これについては、専任の部署を設け、専任の人が対応することが重要である。さらにその重み付けについては社会的趨勢とともに変化することもありえるので、常に責任ある立場のものがチェックを怠らないことも必要である。

これらの判断基準およびそのグレーディングは、食品企業の様態別あるいは規模別

に検討する必要があるか、コアとなる共通部分については今後業界全体としても検討する必要があると思われ、その際に本研究かその一助となると考えられる。

## E 結論

食品企業の危機管理における対応について、特に情報開示の関する点について、医療事故の情報開示との類似性に着目して検討を行った。判断の基準となるべき事項を明らかとし、それらの事項ごとにグレーディングを行い、それらを総合的に判断することで、より客観性を持つ基準のもとに種々の対応か可能となることが考えられた。

## F 健康危険情報

なし

## G 研究発表

### 1 論文発表

Kamegaya H, Osaka T, Kageyama T, Hirano T, Oka J, Miura M, Namba Y, Ricquier D, Shioda S and Inoue S  
Fasting increases gene expressions of uncoupling proteins and peroxisome proliferator-activated receptor-gamma in brown adipose tissue of ventromedial hypothalamus-lesioned rats *Life Sci* 72 3035-46, 2003  
Kanazawa M, Xue CY, Kageyama H, Suzuk E, Ito R, Namba Y, Osaka T, Kimura S, Inoue S Effects of a high-sucrose diet on body weight,

plasma triglycerides, and stress tolerance Nutr Rev 61(5 Pt 2) S27-33, 2003

Kamegaya H, Kamegaya A, Endo Y, Osaka T, Hirano T, Namba Y, Shioda S, Inoue S Ventromedial hypothalamus lesions induce jejunal epithelial cell hyperplasia through an increase in gene expression of cyclooxygenase Int J Obes Relat Metab Disord 27 1006-13, 2003

Ohtoh T, Ono Y, Iwasaki Y, Sakurai Y, Nishino A, Arai H, Suzuki H, Namba Y Non-traumatic recurrent dissection and its spontaneous repair in the circle of Willis Report of two autopsy cases Neuropathology 23 195-198, 2003

Mizuno Y, Namba Y Aging society and the adult guardianship system Great Gerontol Int 3 225-235, 2003

Aikawa N, Kimura S, Namba Y Medical Licensure Examination for the Visually Impaired in Japan Med Educ 38 120-121, 2003

難波吉雄 Common diseaseとしての痴呆 日老医誌、40 30-31, 2003

## 2 学会発表

Umeda Y, Ohkura C, Nakayama S, Namba Y, Ouchi Y, Aigaki T Overexpressing TRX genes enhance oxidative stress resistance in Drosophila The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology, (Tokyo, November 24-28, 2003)

## H 知的財産権の出願・登録状況

- 1 特許取得  
なし
- 2 実用新案登録  
なし
- 3 その他  
なし